

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 土岐市立泉中学校における実践

<授業実践>

①授業実践に向けての構え

昨年度は、土岐商業高等学校において英語の授業を参観することによって、高校での英語授業の在り方や自分が担当した生徒の様子を把握することができた。また、その後の研究会において高校の先生方と話し合うことによって、生徒の実態を交流すると同時に、英語教育に関する互いの考えを活発に交流することができ、高校の先生方とも心的な交流が深まり、大変意味深いプロジェクトとなった。

今年度は、昨年以上に音声を中心とした活動を大切にしたい。単元指導計画に情報の伝達を出口の活動と位置付け、課題解決的な活動を実践していくこととした。具体的には、生徒の意識を位置付け、目標および評価規準との整合性を考えた「単元構想図」の作成をすることと、生徒の興味・関心をもとにコミュニケーション活動の意欲が高まるような「必然性のある課題」を設定することである。

②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年7月2日（金）

【公開授業】

- ・単元名 New Crown English Series Book 1 Lesson 4 “I Am a Champion”
- ・授業学校・学級 土岐市立泉中学校 1年A組
- ・主な提案内容

ア「音声を中心としたコミュニケーション活動」

本時は単元の出口の活動としての位置付けであったので、前時までに学習してきたことから（言語材料および「話すこと」にかかわる付けたい力）を生徒が発揮して積極的に英語を使ってコミュニケーション活動を行うことを意図した。教師も意図的に既習言語材料や Classroom English を多用した。生徒同士にも日本語を使わずに積極的に英語でコミュニケーション活動を行える姿を期待した。



イ「必然性のある課題設定」

生徒が積極的に英語でコミュニケーション活動を行うためには、必然性のある課題を設定することが要件である。そのために以下のような学習活動(TASK)を作成した。

「世界のおもちゃ選手権」が開かれることになりました。審査員のあなたは、それぞれの人を取材して、おもちゃのチャンピオンを決定することになりました。チャンピオンかどうかの条件は次の3つです。

そのおもちゃを ①毎日するか ②上手か ③大好きか

さあ、各国の選手たちに今まで学習した英語を用いて取材し、チャンピオンを決定しましょう！

【授業研究会】

- ・授業の中で45分近く生徒が英語でコミュニケーションをする姿があり、英語を学

習して2ヶ月程度であるが、大変意欲的であった。

- ・中学校では「実践的なコミュニケーション能力」の基礎を養うことがゴールである。必然的な学習課題はとても大切であり、必然的な場面を作ることが大切である。

③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月29日(月)

【公開授業】

- ・単元名 New Crown English Series Book 2 Lesson 6 “Speech – My Dream”
- ・授業学校・学級 土岐市立泉中学校 2年A組
- ・主な提案内容



ア「生徒の意識の流れ」を位置付けた指導計画
 単元指導計画および本時の展開に「生徒の意識の流れ」をシミュレーションし位置付けた。
 生徒の実態をつかんだ上でどのような指導・援助を行えば単元で付けた力を付けられるか考えるためである。

第3時	第4時【本時】	第5時	第6・7・8時
§1の内容を理解し、「将来の夢」について具体的に説明する。 活動の概要 ○帯活動(音読プリント) ○§1の内容理解 oral interactiveによる内容理解 音読練習 話す活動 スピーチの出し方を考える。 重点を置く評価規準 (イ①、ウ①) 生徒の意識 切り出し方がわかれば、何とかスピーチできるかもしれない。	§2の内容を理解し、「将来の夢」について理由を具体的に説明する。 活動の概要 ○帯活動(音読プリント) ○§2の内容理解 oral interactiveによる内容理解 音読練習 話す活動 スピーチの結論に理由を加えて話す。 【重点を置く評価規準】 (イ①) 生徒の意識 ・聞き手にわかりやすく話すために、理由を加えてみよう。	§3の内容を理解し、「将来の夢」について理由を具体的に説明する。 活動の概要 ○帯活動(音読プリント) ○§3の内容理解 oral interactiveによる内容理解 音読練習 話す活動 スピーチの結論に理由を加えて詳しく話す。 【重点を置く評価規準】 (イ①) 生徒の意識 ・さらに詳しく話すために、理由や説明を加えよう。	「将来の夢」について理由を明らかにし相手にわかるように話す。 活動の概要 ○帯活動(音読プリント) ○話す活動 スピーチの展開を材料(身体物)を用いてわかるように話し、スピーチを行う。 【重点を置く評価規準】 (イ②、ウ②) 生徒の意識 ・順序立てて話を進め、英語でスピーチすることができる。

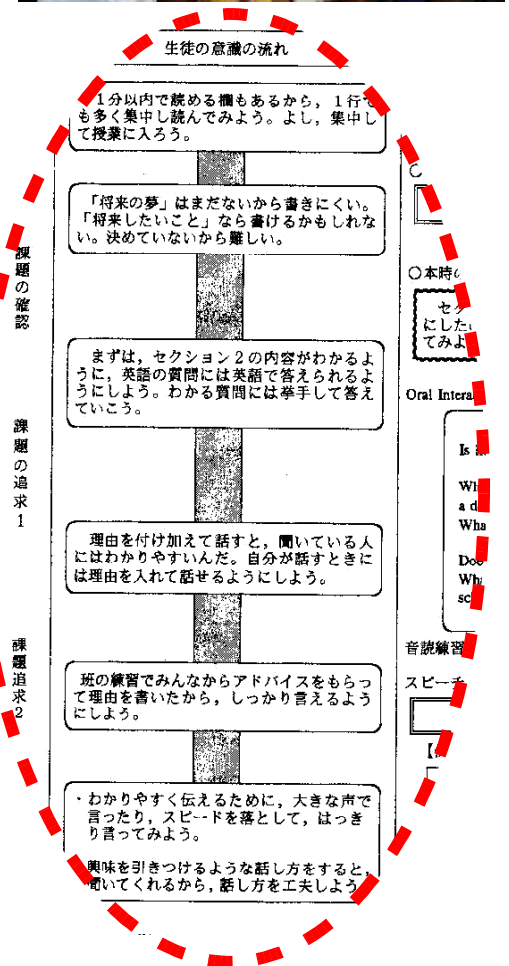
【意欲・態度】 積極的に話そうとする。 継続して話そうとする。	イ【表現の能力】 ①正しい発話 ・話そうとすることを正確に伝えることができる。 ②適切な発話	ウ【理解の能力】 ①正確な聞き取り ・正しく語句や文を聞き取る。 ②適切な聞き取り ・大切な部分を聞き取ることができ	【工】 ①言 ②文
--	--	---	------------------------

イ「仲間の作品から学ぶ」

本時は「将来の夢」についてスピーチするために、すでにスピーチの原稿作りを終えた他クラスの仲間の英文を紹介し、学び合えるようにした。

【授業研究会】

- ・「生徒の意識の流れ」を大切にし、それを指導計画に位置付けてあることが画期的であり、よいことだ。
- ・高校では input の授業内容が多い。output を今後は意識して大切にしていきたい。また仲間の作品からの input という手法はよい。



＜グローバル・スタンダードによる英語力分析調査＞ ケンブリッジ英検ヤングラーナーズ受験

【日時】平成16年8月25日（水）

【受験者数】スターターズ16名、ムーバーズ26名、フライヤーズ15名 合計57名

昨年は、スターターズ39名、ムーバーズ2名の合計41名の受験者数であったが、今年度はさらに上級に挑戦する生徒や昨年度に引き続き受験する生徒があった。自分自身の学習レベルを分野別に認識できるので、生徒の英語学習への関心は大変高まっている。

各レベルとも世界平均との比較等から、さらに実践的な言語活動を多く授業で繰り返し行うこと、また入門期やその後のレベルにおいて、より多くのオーセンティックな英語を聞かせることにこだわって今後の指導改善に生かしていきたい。

＜学習環境の充実＞

昨年に引き続き土岐市内の英会話スクールの講師を1名招き、1年生後期の選択英語で JTE との Team Teaching 形式で行っている。指導内容は、「ALTの自己紹介」「ハロウィーンの紹介とゲーム」「英語の歌」「クリスマスに関するゲーム」などである。

このクラスは、英語発展としての位置付けであり、生徒も英語に関して意欲的な生徒が選択している。14名という少人数なので、生徒一人一人と ALT が接することが可能である。2学期後半からスタートしているが、生徒は大変意欲的に参加していた。授業中は、ほとんど英語を中心として授業を行っているが、生徒の反応はととてもよかった。普段の英語の授業の内容より発展的な内容に生徒も満足している様子であった。

各学年40冊の『TALK AND TALK』という副読本を消耗品費を利用して購入した。言語材料の導入場面や授業の出口活動時に利用をした。

英字新聞(Student Times)を一年分購読し、生徒が興味をもちそうな記事を印刷して配布したり、3年生選択英語の授業で利用したりした。

＜成果と課題＞

成果

- 2年間に渡る中高連携プロジェクトを通して、まず何よりも地元の高校（土岐商業高等学校）を大変身近に感じるようになった。以前は、誰一人として高校の英語科の先生を知らなかった。互いの授業を見合うことによって、生徒の実態をつかみ合うことができたし、研究会では形式にとらわれないぎっくばらんな意見交流を活発に行うことによって、高校の先生方との心的距離が大変縮まった。
- 中学校側から高校の先生方に「実践的なコミュニケーション活動」の場면을授業として提供することができた。音声を中心とし、実際の使用場면을想定した言語活動を見てもらうことによって、中学校側の考えているコミュニケーション活動を中心とした授業を発信することができた。

課題

- ◇中学校では音声を中心とし、「聞くこと」「話すこと」に重点を置いた指導が中心となっているが、高校では大学受験など「読むこと」（長文理解）「書くこと」（知識・理解や文法的な理解度）の指導のウエイトが大きくなる。中学校時においても「何とか伝わればよい」という考え方ではなく、文法的な理解や基本的な単語を書く力についての指導を心がける必要がある。
- ◇単元で「付けたい力」や3年間を見通した指導を行うために、今後も指導計画を工夫し、生徒にとって魅力ある学習課題や実践的な言語の使用場面を作るように工夫していく必要がある。